

カーネーション(スタンダード)
Dianthus caryophyllus
 (ナデシコ科)

国内では大輪のシム系や地中海系の品種を中心に、中輪系の‘コーラル’も作付けされている。コロンビアや中国からの輸入が増え、市場には前歴の異なる様々なカーネーションが出荷されている。個人消費以外にも、仕事花や仏花等多様な用途をもつ。典型的なクライマクテリック型の老化様式をとり、エチレンによる老化を防止するためにSTSによる前処理が必須である。蕾段階で収穫して長期貯蔵することも可能で、この場合糖と抗菌剤を含む溶液を用いて開花させる。物日(母の日)需要に合わせて、このような貯蔵された切り花が出回り、温度が高くなっていることとSTS処理が不十分なこともあり、著しく日持ちの悪いものが出回ることが問題視されている。通常、STSを適切に処理さえすれば2~3週間の日持ちが得られる。

1) 品質評価基準

項目	判定基準	備考
開花	A: 簞状 B: 最外層の花弁が水平より下になる C: 内側の花弁まで展開して形状が乱れる	
花弁の萎れ	触ってみて A: 張りがある C: やや軟 視覚的に D: 花弁先がやや内側に巻き萎れる	STSで適正に処理されていない場合には萎れが、適正に処理されている場合には花弁の褐変・変色で日持ちが終了する。
花弁の褐変・変色	A: 褐変・変色なし C: 外側の花弁に一部褐変・変色あるいは小斑点(直径5mm以下)が生じる D: 花の中心付近の内側の花弁も褐変・変色する	STS以外の前処理剤では必ずしも花弁の褐変により日持ちが終了するわけではない。
茎葉の萎れ	触ってみて A: 張りがある B: やや軟 視覚的に C: 茎葉に艶がなくなる D: 萎れて葉が垂れ下がる	
その他	茎基部の腐り、花弁の退色、C: 軟弱茎(45°以内)、D: 茎折れ、D: 灰色カビ病の発生など。	

2) 留意点

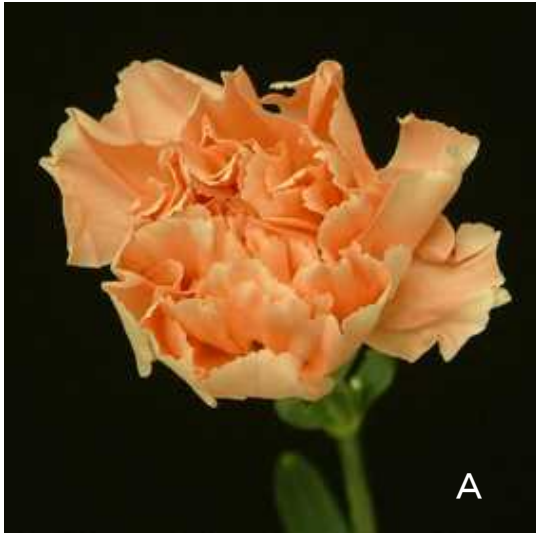
栽培中にアザミウマが蕾に入ると、開花後の小花の花弁に斑が入り萎縮する。このような切り花は評価対象外とする。

品質評価開始時点でSTS過剰障害(写真参照)が強く認められる切り花は評価対象外とする。

品種によっては茎が節部分で折れやすいものがあり、取り扱いを丁寧に行う。

多湿下で灰色カビ病が発生しやすく、発生した切り花はただちに取り除く。

3) 開花



4) チェック事項

老化様相



老化前



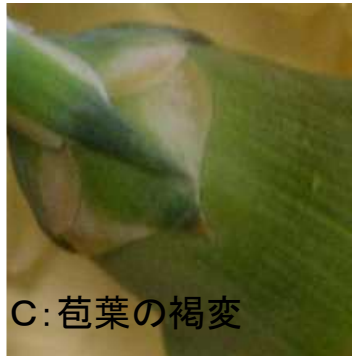
D: 花弁の巻込み
(STS無処理花)



D: 花弁の褐変
(STS処理花)



C: 弁縁の褐変
(軽微)



C: 苞葉の褐変



D: 弁縁の褐変



C: 葉先の褐変

STSの過剰障害



C: 軟弱茎

茎の曲がり・折れ



D: 茎折れ